

**令和5年度第1回久留米広域連携中枢都市圏ビジョン懇談会全体会
議事録**

(1) 日 時：令和5年8月22日（火）14:30～16:00

(2) 会 場：久留米シティプラザ大会議室

(3) 出席者：

＜委員＞

世利洋介委員（座長）、吉田誠委員、實藤俊彦委員、益村千夏委員、赤尾哲之委員、倉掛かおり委員、首藤有一委員、吉田憲和委員、富永明委員、岡村亮委員、吉岡マサヨ委員、野口裕子委員、眞子佳子委員、藤高尚樹委員、野口厚委員、下川裕二委員、高木一希委員、木部匡之（中島佳奈美委員代理）

＜事務局＞

久留米市総合政策部 今田広域行政担当参与
総合政策課 坂田主幹、仁田原主査、佐藤主任主事

＜構成市町＞

うきは市企画財政課 高瀬課長、大刀洗町地域振興課 村田課長

＜ワーキンググループ職員＞

※ワーキンググループは、以下WGと表記

(4) 欠席者：

穴見英三委員（副座長）、石橋和典委員、古賀亮史委員、緒方博子委員

(5) 次第及び議事：

1 開会	
2 議事	
(1) 令和4年度事業実績及び令和5年度事業計画について	
事務局	[令和4年度事業実績及び令和5年度事業計画について説明]
座長	まず、「圏域全体の経済成長のけん引」の分野について委員の皆様の見解・質問をいただきたい。
	新規就農支援事業について、研修会等への参加者は久留米市、小郡市、うきは市、大刀洗町からとなっている。大川市、大木町も新規就農に関心が高いと推察されるが、大川市、大木町に関する支援事業については、どのように考えているのか。
事務局	前回の回答から県久留米普及指導センターの管轄が変わっていないため、状況は変わっていないと思うが、本日出席できていない担当のワーキンググループに確認のうえ、後日回答いたしたい。

委員	魅力ある観光商品づくり事業のまち旅博覧会に係る令和4年度の決算額と令和5年度の予算額に差が生じている理由について教えてもらいたい。
広域観光・MICE WG	令和4年度までは、運営をまち旅博覧会事務局が行っていたが、令和5年度から久留米観光コンベンション国際交流協会が運営を行っている。このことに伴い、事業実施に係る人件費が久留米観光コンベンション国際交流協会の事業費で賄われることとなったため、令和5年度の予算額が減っている。
座長	次に、「高次の都市機能の集積・強化」分野について委員の皆様の意見・質問をいただきたい。
医療 WG	<p>診療情報共有化事業について、現在のアザレアネットの圏域外との連携、情報共有化の検討状況は。</p> <p>アザレアネットには、圏域外の佐賀県全体と八女筑後が入っているが、それ以外でも、みやま市のヨコクラ病院や福岡市のクリニック等、個別に入っている医療機関がいくつかある。</p> <p>このシステムは、常に新しくなっているので、的確に対応していくことと、新しい分野への挑戦を進めて行くこと等、着実にやれるところからやっていくことを第一に考えている。</p>
委員	今後、アザレアネットをどのように活用していくかという点では、様々な検討が必要かと思う。また、共有されている情報は、診療情報が主であるが、介護の情報等必要な情報を共有できるような取組になっていけば良いと思う。
委員	アザレアネットの現在の活用状況は。
医療 WG	診療科によって異なると伺っている。画像を多く取り扱う診療科や、急性期の後の予後の管理について比較的繋がりが高い診療科においては活用されていると聞いている。
委員	美術鑑賞事業について、大木町では、参加者を募ったが、参加が無かったことを踏まえて、今年度は実施しないということだと思うが、例えば、中学校を指定して少し強制的に進めるなり、鑑賞に行くだけでなく、中学生の美術作品を展示するような工夫をすると、参加が意欲的になるのではないか。

文化・芸術 WG	生徒の参加は、何処も教育委員会との調整が難しいと伺っている。また、送迎バスの費用や公用車の活用、所要時間についても課題があると聞いている。美術館の1階は、貸しギャラリーもあるので、近隣の市町で子供達の絵画展等で利用していただけるよう、より周知を図っていきたい。
座長	次に、「生活関連機能サービスの向上」の分野について委員の皆様の見解・質問をいただきたい。
委員	電子図書館共同運用事業について、電子図書館の具体的なイメージについて伺いたい。
電子図書館共同運用事業 WG	パソコン等を用いて時間や場所に制限されることなく、電子書籍の貸出や閲覧、返却ができるシステムである。クラウド上に電子書籍があるので、お住いの市町の図書カードをお持ちであれば、クラウドにアクセスし、電子書籍を読むことができる。
委員	電子書籍は、各市町の蔵書なのか、それとも新たに電子書籍を購入するのか。
電子図書館共同運用事業 WG	各市町の蔵書がそのまま電子書籍化されたものではない。出版社が電子図書館用に提供する電子書籍である。初年度は、一万冊程の電子書籍を導入したいと考えている。内容については、今後選書していくが、児童書や一般書等、なかなか図書館に行けない方も電子書籍をパソコン等で読めるよう導入していきたい。
(2) 成果指標について	
事務局	[成果指標について説明]
座長	成果指標について委員の皆様の見解・質問をいただきたい。
委員	生活関連機能サービスの向上の分野の「講演会及び研修会への連携市町職員の延べ参加人数」について、成果指標に上げなければいけないほど重要な項目なのか。
事務局	この成果指標に関連する事業は、「人材の育成及び確保事業」である。この事業においては、自治体を取り巻く環境の変化に的確に対応し、幅広い視野と圏域全体をマネジメントできる能力を持った人材の育成を図るため、圏域内の自治体職員の人事交流や研修会の合同開催、人材育成・確保のノウハウ共有化に取り組むこととしている。そのため、圏域内において自治体職員の研修会等を実施し、そこに紐づく成果指標として「講演会及び研修会への連携市町職員の延べ参加人数」を設けて、実績の報告を行っているものである。

委員	令和4年度の「講演会及び研修会への連携市町職員の延べ参加人数」の実績が21人と非常に少なかった原因は。
人材確保・育成 WG	令和4年度は、コロナの影響を受けて開催できなかった研修がいくつかあったことにより、実績が減っている。また、開催できたものについても、会場に集める人数を制限するため、各市町からの参加者を1、2名と絞らざるを得なかったことによるものである。
委員	アザレアネットについては、成果指標として参加医療機関を増やしていくというところはあるが、システムのアクセスログを確認し、色々な医療機関のアクセスのボリュームが見えると、より一層このシステムが非常に有効であるということが見えてくると思う。
(3) ビジョンの改訂について	
事務局	[ビジョンの改訂について説明] (質問・意見は特になし)
3 その他	
座長	全体を通して、委員の皆様の意見・質問はないか。 それでは、公共交通関係についてご意見等いただきたい。
委員	生活関連機能サービス向上の分野の成果指標である「鉄道乗降客数」と「路線バス乗降客数」については、コロナ禍前の数値を基準値としたうえで、目標値が設定されているが、「路線バス乗降客数」は、令和3年で7,577千人とコロナ禍前の75パーセント程度、令和4年で約85パーセントまで回復をしているものの、令和7年で100パーセントまで回復するのは厳しい状況になっている。少子高齢化と共に、様々な生活スタイルの変化に伴って外出の機会が減っている中では、そこまでは戻り切れない。そのような中で、可能な限り、利用者の交通手段の確保のため、目標値に到達できる様にネットワークの維持をしていきたいと考えている。現在、乗務員の不足等によりバス路線のネットワークの維持が非常に難しくなっているので、何かしらの支援や協力体制があればネットワークの維持に繋がると思う。
委員	生活関連機能サービスの向上の分野が、地域の方に住み続けたい、暮らしてみたいと思っていただく非常に重要なところだと思っているが、令和4年度予算額の約3億1千万円に対し、決算額は約4千万円の未執行分がある。どのような理由か。
事務局	生活関連機能サービスの子育て支援に関する部分になると思うが、確認し、改めて回答いたしたい。

委員	生活関連機能サービスの子育て支援に関する令和4年度決算の未執行分については、久留米大学で病児保育事業の支援をしてもらっていたが、10月から企業主導型の保育園に変更したことに伴うものと理解している。
委員	気になるのは、人の動きと物の動きがここ2, 3年著しく少なくなっていること。観光入込客数の令和3年の実績も基準値の約66パーセントとなっている。人に来てもらい、買い物してもらい、公共交通を利用してもらうためには、地域の連携が大事になってくる。地域を巻き込んだイベントを実施して、圏域全体的の活性化につながる計画や観光入込客数を増やす手立てがあれば教えてもらいたい。
広域観光・MICE WG	観光入込客数を伸ばしていくためには、福岡都市圏等からお越しいただくことが重要だと考えている。また、個々の自治体の取組だけでは、単発で終わってしまうので、圏域の魅力を高めて、遠くからの誘客を図っていかなければならない。現在、宿泊を含む圏域のモデルルートを作成し、周遊を図り、訪れる方を増やす取組を行っているが、それをいかに知っていただくかが今後の課題である。今、SNSで発信を行っているが、なかなか効果的に届いていないと実感しているため、効果的な方法について検討していきたい。
委員	久留米地域地場産業振興センターでも事業を展開しており、昨年11月に天神地下街で物産展を開催した。その際、4市2町から特産品について情報提供いただいた。今年度も2月に天神地下街で物産展の開催を予定しているので、できればこのような新商品がある等の情報提供をいただきたい。
委員	産業振興というところでは考えると、国内の何処に工場をつくるかというパイの取り合いになっていると思う。その中で久留米のエリアに大きな色々な企業が立地していただくことは、産業振興や人口、総生産額を伸ばすための大きな推進力になると思っているが、企業誘致のビジョンはどうなっているのか。また、企業誘致に必要な用地の確保や整備計画についてお尋ねしたい。
事務局	本日、担当のワーキンググループの職員が出席できていないため、後日確認のうえ、回答いたしたい。
委員	観光入込客数が落ち込んでいるのは、コロナ禍の影響が大きい。令和3年度の県全体の宿泊者数を見ても、令和元年と比較すると約半分になっている。昨年の10月には、水際対策も大幅に緩和され、今年の5月にはコロナの感染症の分類も2類から5類となり、観光客もかなり戻ってきている。日本人の宿泊ベースだと、令和5年5月の数字は令和元年の数値に戻ってきている。令和5年5月の外国人の入国者数は、コロナ禍前の8割まで回復している。地域差はあると思うが、恐らく観光入込客数はかなり戻ってきていると我々

	<p>は考えている。観光関連の事業においては、ターゲットを絞って、来てもらっている層にしっかり情報が届くようにアプローチしていくことが、引き続き重要だと思う。また、今年の10月には、初めてツール・ド・九州が開催される。これらの大規模イベントと連携してイベントを開催することで、より効果が見込まれると思う。人口減少社会においては、他の地域からの交流人口が大切になってくるので、インバウンドの視点も取り入れながら取組を進めていただきたい。</p>
委員	<p>成果指標の「圏域の労働者数」の出し方についてお尋ねしたい。</p>
事務局	<p>圏域の労働者数は、久留米公共職業安定所が作成している「南部地域ハローワーク業務月報」中の雇用保険の被保険者数を用いている。</p>
委員	<p>人口減少社会において、会社からも人が足りないという声を聞いている。令和7年度の圏域の労働者数の目標値は、恐らく達成するかと思うが、それ以降は、全国的に減少が見込まれるので、非常に大変だと感じている。</p>
委員	<p>成果指標の「久留米美術館の入館者数」がかなり減っている。コロナ禍や長期休館していた影響もあるが、コロナ禍前に戻るのは非常に厳しいと実感している。これは、少子化等の様々な要因があるが、団体客が戻ってきていない。インバウンドが戻ってきたときに、対応できるよう対策をしなければと考えているが、観光に関連する支援について考えていることがあれば教えてもらいたい。</p>
広域観光・MICE WG	<p>インバウンドの来訪者向けとして、案内表示の多言語化、トイレの改修等のメニューを用意している。その中で、Wi-Fiの対応等のメニューが多く活用されている。これからインバウンドを再開するに当たって、状況を見ながら、支援を広げて対応していかなければならないと考えている。</p>
委員	<p>乗降客数と観光入込客数は連動していると思っている。このエリアに遊びに来る方が増えると、通勤、通学以外での利用者数が増えるので、観光の取組は非常に大事だと思う。大型のMICEやスポーツイベントの誘致、誘客の施策等の検討を行っていけば、観光入込客数が増えてくると思う。海外系のインバウンドのMICEであれば、1、2週間の長めの休暇を取って、バカンスをされるので、広域で移動される方達も増えると思う。</p>
座長	<p>事務局には、本日、十分な回答できなかった点についてフォローをお願いする。また、委員の皆様で、追加の意見等あれば事務局に連絡をお願いする。</p>
<p>4 閉会</p>	